

ART CAMP

共に刻む、永遠のサーカス

2021

アート・ランタン・カーニバル
ライブペイント
みんなの足跡
わくわく！サーカステント
Dome Dome
Body Art
イドラのサーカス
Unique brooch
しまっちゃん企画
Happy Balloon
本部



あなたにとって「時間」とは何ですか？

今年のアートキャンプを企画したメンバーにとっては…。

「未来」「一瞬」「記憶」「ノスタルジー」
「いのち・生命」「やり直しの効かない有限なもの」
「それぞれに違って見える景色・経過の流れ」
「歴史」「平等に与えられたもの」
「歯車」「曲線」「発展」「永遠」「層」

コロナウイルスのパンデミックが起き
私たちは誰かと「共にする時間」を失いました。

そして、同時に「1人で過ごす時間」が増えたことと思います。

今年のアートキャンプのテーマは

「時間」

久しぶりに誰かと共に過ごす
アートキャンプのひと時を通して
共に「時間」とは何か、考えませんか？

2021 10/16(Sat)~10/17(Sun)







アート・ランタン・カーニバル 06

ライブペイント 08

みんなの足跡 10

わくわく！サーカステント 12

Dome Dome 14

Body Art 16

イソラのサーカス 18

Unique Brooch 20

しまじゅん画 22

Happy Balloon 24

本部 (ART CAMP 2021を振り返る) 26



ランタン・カーニバル

- 暗闇に浮かぶ小さなアートの燈 -

参加メンバー：ジャンブラット恵琳、
加藤綾、金子真由、東海林由希

06 ARTCAMP 2021 フォート・ランタン・カーニバル

活動内容

アート・ランタン・カーニバルでは、参加者がキャンドルライトと紙コップやプラコップを使ってランタンを作り、それを展示するといったワークショップを行った。日が落ちると昼間の雰囲気とは一変してより幻想的な展示へと変わった。作品を見ていくと、参加者の1人1人の個性がよく見えるプロジェクトだったと感ぜられる。

アートキャンプを終えてこの企画を立ててから当日までの感想やプロジェクトに対する思いをプロジェクトリーダーに語ってもらった。

「プロジェクトを始めようとしたきっかけは？」

グラフィックデザインサークル(GD)に入っていて、昨年はGDの先輩が行っていたプロジェクトに参加していました(色水実験)。その際、「できたものが集まっていき、また見に来た人の反応も見ることのできる様な交流の場にできたらいいな」と企画の加藤さん、金子さんと話していました。そのため今年はテーマの「サーカス」に合わせてテントの周りの装飾としてランタンを作れないかなと思いい、企画を立てました。

「準備期間で大変だったことは？」

対面活動が厳しかったので。オンラインで話したり、対面開始後に少し会ったりするだけだったので、話し合いがしづらかったと思います。

緊急事態宣言の都合上9月は対面で活動できなくなってしまう、その影響もありやはり企画を進めるのが難しくなっていました。

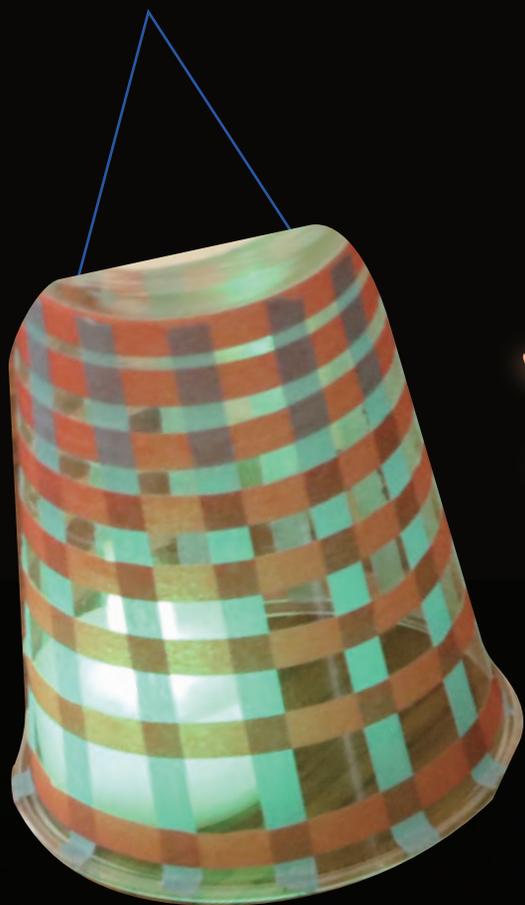
「当日の雰囲気は？」

思っていたよりもすごい人が来てくれて、大賑わいになって嬉しかったです。みんなが楽しそうに参加してくれてとてもよかったです。私たちも交流ができて、初日から一安心でした。好評で個数が足りず、2日目はワークショップはなしにして展示だけ行いました。

「1日目の屋外展示と2日目の室内展示の違いは？」



アート・ランタカ



数が足りず、2日目はワークショップはなしにして
展示だけ行いました。

1日目の屋外展示と2日目室内展示の違いは？

外だとこんなところにある！といった発見とか
昼の明るい展示と夜の暗いところとの時間帯に
よって違いがあるところが面白かったです。部屋
だと暗い状態でずっと展示できるよさがありました。
また、展示会場まで誘導する装飾にもなりよかつ
たなど。

1当日を終えてみて。

とりあえずよかったです！オンライン上で個々で活
動していて、出来るものに制限がかかってし
まうと思っていたのですが心配も杞憂に終わり、
無事やりたいことを全て成し遂げられたのでとて
も安心しました。

1企画の魅力、やりがいとは？

作るのにはコツがあったり難しかったと思うの
ですが、完成して光を入れてみるとすごく綺麗で
華やかになって。夜まで待って見る楽しみも。

1また同じプロジェクトをしたら？

もう少しライトを用意しておくのと、今回はキャ
ンドルライトを使用しましたが、もうちょっと違
う形のライトを使用したら幅が広がるかな、と。

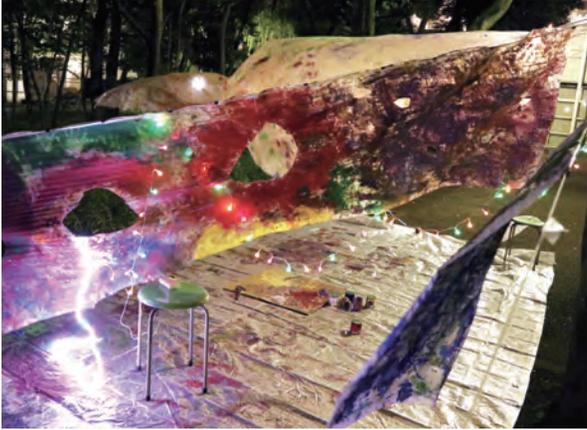
アートキャンプ当日、初日は予定通り行えたも
の、2日目には雨天開催となった。それに伴い
アートランタンカーニバルは室内展示へと変わつ
たが、室内だからこそその良さを生かし無事2日間
の展示を終えることができた。他にも強風の中
での展示の仕方や、対面活動の禁止などで予定通
りに企画が進行していかない中、それぞれが工夫し
彼女らなりの企画として無事成功することができ
た様だった。

最後に、アートキャンプを終え、全ての活動を
通して総合的な感想を伺った。

1今年のアートキャンプはどんなものでした？

楽しかったです。対面活動ができなかったから
こそ一体感を感じました。Tシャツや缶バッジな
どもありさらにそう感じました。同級生がプロ
ジェクトをやっていてより近さを感じたりしま
した。また、みんな優しくチームでの採め事もな
く終えることができてよかったです。

お互いに歩み寄らなければいけない状況での活
動だったからこそ、よりチームワークを感じられ
た様だ。今年度経験して見つけることのできた案
しさやアドバイスなどを是非来年にも引き継いで
行って欲しいと思う。



08 ARTCAMP 2021 ライブペイント

描く。飾る。 そして、 魅せる。

活動内容

当日、大きな支持体(ビニール、寒冷紗、テンプルクロス、緩衝材、布等)にイベントカラーで各自絵を描き、描き終えたらそれを展示して鑑賞する。屋外中庭。4人での作業。

—どんな活動をしたか教えてください。

当日用意していた支持体に、みんなその場で絵を描いて、出来たらその場で飾っていくという活動をしました。

—コンセプトについて教えてください。

段々出来上がっていく工程を時間と共にみんなと共有していくというのを楽しめたらいいなと思ってやっていました。

—なるほど。えっと…2年連続ですか？

3年連続…。

—3年連続！おお。1年生の時からリーダーを？

1年生の時はリーダーではなく、何となくこれやってみたいなという感じでライブペイントをやってみて、次の年から友達と。去年は友達がリーダーをやって、今年は私がリーダーをやるみたいないな感じでした。

—3年やってみて、思うことはありますか？

3年やってみて…。毎年同じようなことをやってみてはいるんですけど、やっぱりなぜか毎年変わっていくなという不思議さとか。あと、去年と今年で活かせたことが多いかなと思います。

—これ、聞いていいのかわからないんですけど…どんなことを表現しているのが気になっていて。

結構漠然としているんですけど…。一人一人描きたいものがあれば、自由に描いてもらって大丈夫って感じなんですけど、私の場合は、とりあえず手と絵の具を動かしてみたい、やりたくなったらやりたいことをバアーッとやるみたいなの。とりあえずやってみよう精神でやってみました。

—感性に任せて。

気分に合わせてみたいなの。

—それがライブペイントの面白さでもありますよね。

雨で環境が変わり、よかったことや大変だったことはありますか？

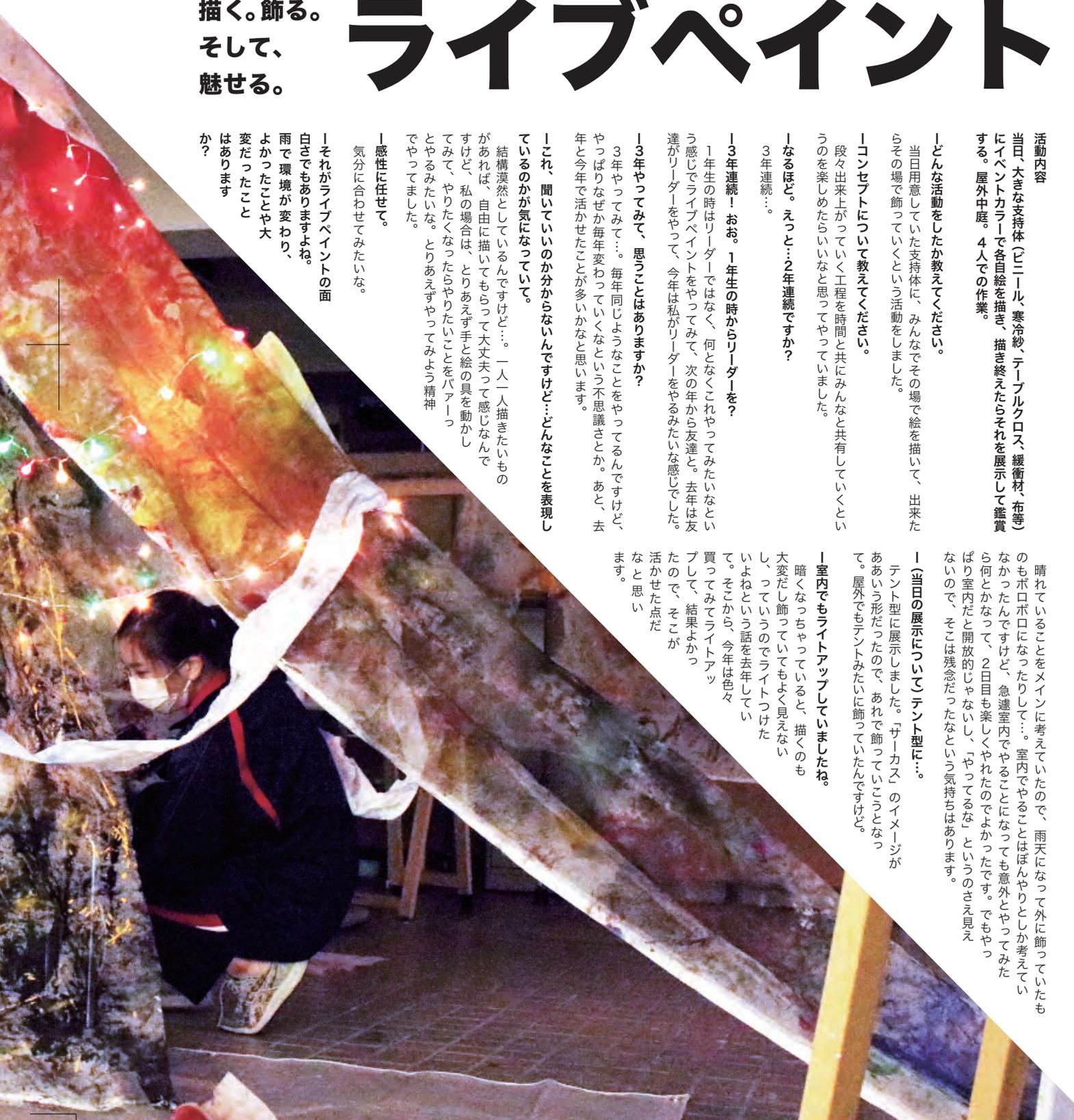
晴れていることをメインに考えていたので、雨天になって外に飾っていたのもポロポロになったりして…。室内でやることはほんやりとしか考えていなかったんですけど、急遽室内でやることになって意外とやってみたら何とかなって、2日目も楽しくやれたのでよかったです。でもやっぱり室内だと開放的じゃないし、「やってみるな」というのさえ見えないので、そこは残念だったなという気持ちはあります。

—(当日の展示について)テント型に…。

テント型に展示しました。「サーカス」のイメージがあいいう形だったので、あれで飾っていいことなっ。屋外でもテントみたいに飾っていいんですけど。

—室内でもライトアップしていましたね。

暗くなっちゃっていると、描くのも大変だし飾っていてもよく見えないし、っていうのでライトつけたいよねという話を去年して。そこから、今年は色々買ってみてライトアップして、結果よかったので、そこが活かせた点だなと思います。





「夜になっても見えるっていう。そこが工夫点だったんですね。」

「どういう素材を使ったのが気になります。」

「素材は、寒冷紗、不織布、あと緩衝材みたいなものの3種類を。軽くて、いいなと思ったものを使ってみました。絵の具はイベントカラーを毎年使っていて、今年もそれを使いました。」

「軽いものにしたのは風とかを意識してですか？」

「そうですね。風の影響が出ますし、あと紐を結んだところとかが弛みやすくなっちゃうので、それを抑えるためにも今回は軽いものを使用しました。」

「当日を終えて思うことはありますか？」

「不織布を初めて飾ってみましたけど、思ったより綺麗で。すごく風に影響されやすく、大きくてふにやふにやした感じがとっても綺麗だったので、それが予想外ですごくよかったです。」

「この企画の魅力ややりがいなどはありますか？」

「自由に描いていいとなると、1人1人の個性を絵で出せませすし、描いて飾るだけっていう単純でわかりやすいのがいいかなと。1人だけだとあまり枚数描けないし、大きいものもそんなに描けないというのもあるんですけど、みんなで描いてみんなで飾ることで、大きくて大きなものが自分の作品の一部になって出来るということに、すごくやりがいを感じます。」

「確かに。何人かで作った作品が見られるという機会、授業とかであまりないですね。」

「今年のアートキャンプを振り返ってどんなものだったと思いますか？」

「去年コロナ禍になって、その中で今年もやって。同じコロナ禍でも今年が変わったなど。コロナ禍の中で成長したといえますか。コロナ禍2年目感が全体的に感じられましたね。」

「オンラインミーティングひとつでも、今年は慣れてるみたいない感じありましたよね。」

「去年は大変でした…(笑)。」

参加メンバー

林里奈／金保真奈美／平岡美乃莉／本間果史

09 ARTCAMP 2021

ライヴペイント



みんなの足跡

活動内容

会場の屋外空間にて、様々な足跡を演出するプロジェクト。
当日には参加型足跡作り体験を行うほか、足跡カードと賞品の配布を行った。



—すごい。企画全体は1年生だけでやっただんですか？
友達同士で、こういうのやりたいんだって話したら賛同してくれたので、最初はその3人で何となく集まった感じでした。その後募集をかけたら先輩方も賛同してくれたので、先輩方の力も合わせてやりました。

—この企画のコンセプトを教えてください。
アートキャン全体が「サーカス」ですよ。そのサーカスの一団が、実際にここを通ったんだと思えるような感じに。それがコンセプトですね。

—なるほど。「サーカスが通っていった足跡」みたいな。はい！そうです。
—いろんな足跡がありましたよね。
動物もあるし、赤ちゃんの足跡とかも作っただですよ。それはちょっとサーカスじゃないかもしれないけど、わちゃわちゃ感が出るなと思って。

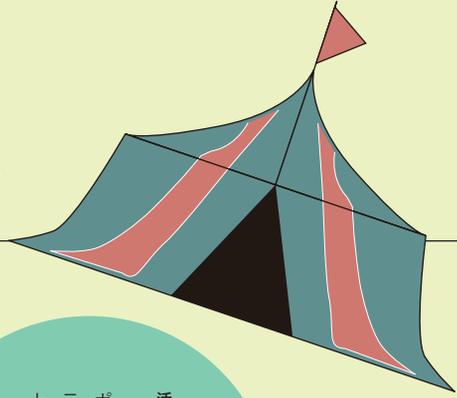
—どんな活動をしたか教えてください。
当日は2つの班に分かれて活動しました。
1つは、テントの受付で飾った足跡がどこにいるのかを探す用のマップを配ったり、コンプリートしたら、景品としてティッシュを渡すなどという活動を。
もう1つは、プレハブ小屋で足跡を実際に作ってみよう！というもので様々な道具を使って、21号館内のボードに貼り付けることで、見るたびに足跡が増えていくというような活動をしました。

—この企画をしようと思ったきっかけなどはありますか？
きっかけ…。今1年生なんですけど、大学生活をあまり実感できなかったんですよ。なので、何か残したいと思った時にアートキャンを開催すると聞いて、何かやろうと思ったのがきっかけです。どうしてこのプロジェクトかっていうのは特になくて。本当に思いつきそのまま始めちゃったので…。



ようこそ！ 私たちのシアターへ

わくわく！サーカステント



参加メンバー

山崎舞・細木夏野・
出山瑛梨佳・平野菜月・
内田あい子・千葉春歌

活動内容

ポールと布でテントを作り、
テントの中のモニターに映像を
上映する。

12 ARTCAMP 2021 わくわく！サーカステント

— わくわく！サーカステントではどのような活動をしましたか？

主に映像制作とテント制作です。映像制作では描きたいシーンを繋げて、それぞれ「サーカス」というテーマで1つになるよう構成しました。主にアニメイトやコマ撮りを使用しました。テント制作では様々なテントを考え改善を重ね、最終的には立派なテントを立てることができました。

— コンセプトは何かありますか？

アートキャンプの今年のテーマである「サーカス」から発想し、サーカステントの中で映像を見ようというコンセプトです。ただ映像を流して見るだけでなく、その空間でも来てくれた人を楽しんでほしいという想いの下、活動しました。

— では、わくわく！サーカステントの活動をしようと思ったきっかけは何ですか？

3年で最後のアートキャンプになるため、興味があった映像をやりたいと考えてこのプロジェクトを立ち上げました。

— 苦労は何かありましたか？

準備期間では、対面作業ができなかったり、スケジュールが合わなかったりしたため自宅での個人作業が増えてしまい、制作が思うように進まなかったことです。
当日の苦労は、雨の対応です。2日目に向けて雨からテントを避難させるための移動が大変でした。

— 当日プロジェクトに来てくれた人のリアクションはどうでしたか？

最初はテントを見て「何だろっ」という感じで入ってくれて、照明や映像を見て「わあ、すごい！」と感動してくれたのかなと思います。

— 雨天のときと通常時を比べてプロジェクトの見え方の違いはありましたか？

— 1日目の通常時は荷物が近くにあっつてごちゃごちゃしていました。自然の中にテントがあっつて溶け込んでいるなと思いました。

室内だと最初から真っ暗なので、照明を使った演出でいい雰囲気を出せたと感じました。

— 雨天時に「すやすやサーカステント」と改名したと聞きましたが本当ですか（笑）？

雨天時の場所が人に来てもらいにくい場所であったのは感じていて、最初の方は1人も来ない状況で…。

雰囲気も1日目よりも柔らかくなって、ゆっくりできる空間になったと感じたので「すやすや」に個人的に改名しました（笑）。

— パネルを外で見かけました（笑）！

そうです（笑）。それに「すやすや」って大きく書いて見ても読めればいいなあという気持ちでした。そしたら人も来てくれました。

— 2日目、イドラのサーカスさんとコラボを行っていたと思うのですが…。

急にコラボすることになったんですけど、テントの白い布の部分に映像を投影してくれました。

— プロジェクト間の繋がりが感じられてよかったです。では、やりがいを感じた場面はありましたか？

途中までは完成が見えなくて大丈夫かなと不安にもなりましたが、当日には制作も終わり完成して、いざできたものを見るとよかったですね。

— サーカスのイメージにぴったりのテントでしたがあれはどうやって用意したのでしょうか？

兼古先生が実習費で買ってくれたものですが、最初は学校から借りるつもりでモニターじゃなくてプロジェクトを使う予定で暗くする必要があります。夜っていう考えがなくて昼間のうちに上映したくて暗幕をつけて赤と白の布をかぶせたかったのですがそれだと重さでテントが壊れないか心配で…。

— なるほど…。





13 ARTCAMP 2021 わくわく！サーカステン

次の案で木から吊るすというもありましたが、危険なので先生からストップがかかってしまって…（笑）。次に鉄のポールを立ててそこにテントを吊るすのはどうだろうという案がありました。絵を描いてみると見た目がごつくなってしまう（笑）。そこで兼吉先生がこういうのはどうかって提案してくれました。

—それで最終的にあの形になったのですね。

—そうです。途中でモニターではなくなっていたので暗幕がいらなくなっていて、最終的な形に持っていくことができました。

—テントの中にぬいぐるみがありました。それが持ち寄ったのですか？



— 1日目の通常時は荷物が近くにあってごちゃごちゃしていました。自然の中にテントがあって溶け込んでいるなど思いました。

—なるほど…。

2年生が持って来てくれたもので、映像の中の主人公をイメージして置きました。

—もったところでしたか？

—制作面の個人作業が慣れないアニメイトで行き詰まり、当日ぎりぎりに完成したのもっとみんなが取り組みやすいものにすればよかったですね。

—では最後に、当日を終えてみて思うことは何ですか？

—やりきった感ですね（笑）。やってよかったと思います。やってなかったら、



映像やりたかったなと後悔していたと思うので、大変でしたが最後までできてよかったです。



Dome Dome

風わたる、スタードーム

14 ARTCAMP 2021

Dome Dome

—どんな活動をしたか教えてください。

私たちは竹などの身近な素材を使って作るスタードームの展示をしました。夜にはライトアップをし、昼と夜では違った姿が見える展示を行いました。

—自然の素材を使って展示するというのはどういうきっかけで決まったのですか？

竹が素材として一番安く、加工がしやすいということで選択しました。

—なるほど。スペースデザインサークルさんは、普段はどのような活動をしていますか？

例年は、緑苑祭とアートキャンプに向けてカフェの製作や運営をしていましたが、今年はカフェが難しいということもあり、こういったオブジェの制作にしました。他にも旅行（合宿）とかも、コロナ禍でなければ行っていました。

—制作中、どんな苦労がありましたか？



活動内容：準備段階で制作した竹のドームを展示する。1号館の芝生に設置し、周辺から鑑賞してもらう。

メンバー：今村朱里、須藤明紗、小川千夏、芳賀美南、山本茉依、小山純伶、
兒玉実咲、徳増綾、鍋倉茉桜、高瀬愛奈、北山末沙稀、南雲妃雛

あり、こういったオブジェの制作にしました。他にも旅行(含宿)とかも、コロナ禍でなければ行っていました。

—制作中、どんな苦労がありましたか？

竹を割るのがとても大変で一番時間がかかりました。あとは、竹を曲げるときに竹の節があるところでも曲がらないので、その節をなたで一つずつ取るという作業が大変でした。

—制作期間はどのくらいかかりましたか？

5日くらいかかりました。

1度、1日かけて竹を割ってドームを作ってみましたが出来なくて。

次の作業日に、竹を薄くなたで削ったという感じでした。

—何人くらいで作りましたか？

10人くらいはいるのですが、代わる代わる4、5人くらいで作ったと思います。

—この企画の魅力や、ポイントはどこだと思いますか？

夜の展示のライトアップが、とてもきれいなところですが、当日風が強かったのですが、リボンが風で揺れて、ちょうど良かったです。

—ドームの真ん中のリボンですよ。

そうですね。飛んで行ってしまつアキシデントもありましたが、つけて良かったです。

—当日を終えてみて何か思うことはありますか？

本当は大きいドームをもう一つくらい作ろうと思っていたのですが、9月の後半からの作業が(校内立ち入り禁止)できなくなったりして、慌てて小さなドームを沢山作りしました。臨機応変に対応した結果、結構いい展示になったと思っています。

—小さい所から大きくなり、流れるような配置で素敵だなと思います。

あの場所にした理由はなんですか？

開けていて、芝生があつた方が見た目的にもきれいなところがあつて。でも16号館前の芝生だとあまりにも離れているかな、と思ったのでここを選びました。

—外部の先生が「なんですかこれは？」と話しかけてくれたり、幼稚園の子たちが興味津々に見てくれましたね。質問が変わりますが、コンセプトはありますか？

アートキャンプが「サーカス」というテーマだったので、布やリボンをかけるときも、色やそのロゴマークに寄せた物を選び、カラフルなものにしました。

—今年のアートキャンプを振り返ってみて、どうでしたか？

スペースデザインサークルとしては、私が1年の時にカフェを作ったくらいで、去年はアートキャンプに参加していなかったのも出来ませんでした。

今回はドームを作ったことで、新しいものにチャレンジできたかな、という感じです。

—コロナによって新しい挑戦をせざるを得なかったということですね。

来年もう1度やるとしたら、どんなことをやりたいかありますか？

うーん(笑)、後輩次第なんですけど、でもやっぱり、カフェができたらいいなと思っています。食べ物系があると、またちよつと楽しさが増えると思うんです。

—そうですね。コロナが収束して食べ物が復活してくれたらいいですね。

—本日はありがとうございました。

15 ARTCAMP 2021

Dome Dome

「このプロジェクトをしようと思ったきっかけを教えてください。」

まずはアートキャンプで企画を立ててみたいと思っていて、今年のテーマが「サーカス」だったので、それに沿って友達と一緒に企画を考えてプロジェクトを立てました。「サーカス」というとピエロが白塗りしているイメージがあったので、体にペイントをしたら面白いのではないかとこのころから始めました。

「発想がすごいですね。鮮やかなイメージがあったので、「サーカス」と合っているなと思っていましたが、そういった発想の仕方だったと知って面白いと思いました。友達と、というのは…。」

私が友人に企画を立てようという誘い、テーマが「サーカス」で、本部の方がプロジェクトとプロジェクトの繋がりも大事にしたいとおっしゃっていたので、ボディペイントのようなものを作ったら人との繋がりも大事にできるんじゃないかと思って、その方向性で行こう！という感じですね。

「どんな活動をしましたか？」

当日に向けての活動は、2つやっていて、1つはメンバーそれぞれに自由にボディアートをしてもらいました。もう1つは夏休みにメンバーと対面で、ワークシヨップにあった押し花タトゥーとボディジュエリーと、ボディペイント専用ペンを試してみました。

「ボディペイント専用ペンは当日やっていませんでしたね。」

そうですね。コロナの影響でそれは止めよっかとなったんです。それと、試してみたら全然落ちなくて(笑)。なので腕に絵を描く場合は絵の具で、お互いに絵を描きあうというのをしたかったので、それも止めようとなって、今回は2つのワークシヨップにしました。

「苦労は何かありましたか？」

1番は新型コロナウイルスの影響で、どこまでが大丈夫なのかという線引きが難しく…。

「そうですね。でも人との繋がりを大切にと言われているから…。」

そうですね。それがやっぱり大事なところなので、どこまで道具を使いまわしていいかとか、どこまで近づいていいかなどが難しかったですね。その準備が1番忙しかったかな。とにかく感染対策に苦労しました。

「当日を終えてみて思うことはありますか？」

もうとにかくホッとしてます(笑)。ちゃんと何事もなく、トラブルもなく、終わってよかったという感情がまずは(笑)。実際にやってみて楽しかったですね。みんな楽しんでくれていたという印象を受けたのでやってよかったし、あとは気づきも多かったのですごくよかったです。

Body Art

肌にふれる。心に触れる。

「今年は一緒に塗りあったりできなかったと言っていましたけど、来年もボディアートをやってみたいという気持ちはありますか？」

今回思ったのは、リーダーで人をまとめるというところに重点を置きすぎて、個人制作的には芸術的な発見が結構薄かった気がして。なのでもう少し(制作を)できないかなという気持ちがある。もっというるべきかなと。ボディアートの言葉の意味が「身体を媒体とした芸術」という感じなのですが、そんな硬いイメージではなく、もっと広い視野で捉えようというのが最初の狙いだったので、本当はアートメイクもやってみたかったです。あとネイルもやってみたかったです。そういうことも研究したかったですけど、そこまですまじいかなかったので、もし機会があればそういうこともできたらと思ってます。

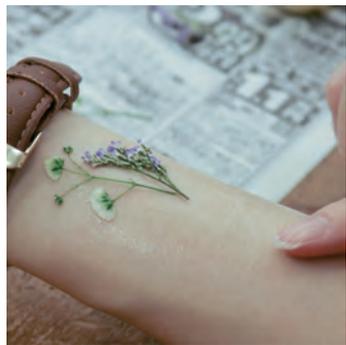
「みんな造形なのできつとセンスも良いし、お任せでもらうのが楽しそうですね。」

絶対楽しいですよ！あと、今年は造形だけでしたが、コロナが落ち着いて服飾学科の学生とも一緒にできたらすごく面白いんじゃないかと企画段階から思っていて、来年できたいいなと思ってます。

「今年のアートキャンプはどんなものでしたか？」

閉会式で早瀬先生が言っていたように、





押し花タトゥー
体験①



押し花タトゥー
作例②



押し花タトゥー
作例①



ラメアート
体験②



ラメアート
体験①



ラメアート
材料



押し花タトゥー
参加者



ラメアート
体験③



ボディペイント
作例①

— いい話が聞けてよかったです。本日はありがとうございました。

— こういう時だからこそ対面でできてよかったですよね。

はい。本当に対面でできてよかったです。人と直接顔を合わせるって大事ですよ。ね。思い返すとみんな笑ってましたね。写真を見返すとみんなすごく楽しそうにしてたというのすごくよかったです。

— たしかに基準ができたというのはいい学びでした。

先輩も見たことある人だなというのが多かった。あとは、コロナもあるけど、どこまで行けるのかをアートキャンプを通して試せましたね。ここまではダメだけどここはいけるという基準や指標ができた気もして、そういう面で学びがあったなという感じです。

今年には造形表現学科だけだったのでいい意味でアットホームな雰囲気があり、それはそれで楽しかったです。造形のお祭り感が今年ありましたね。

活動内容
参加者にBody Artをして楽しんでもらう。
①押し花タトゥー、②ラメを使ったボディアート、③腕等へのペイントの3つのプログラムを実施する。作品を写真に撮り展示。

STAFF/MEMBER

- 田中麗奈 / 山口日菜 / 村井綾香 / 山本明春花 / 星野文那 / 益子茉莉花
- 布施陽夏 / 鈴木遥佳 / 松下琴美 / 田村美沙樹 / 石川くるみ / 加藤綾
- 本澤美緒 / 岩田望 / 中野杏美 / 越川碧 / 川口美沙 / 松永莉乃 / 山本千夏
- 盛薫子 / 黒田花穂 / 財部陽香里 / 浅利菜月 / 篠崎和花



18 ARTCAMP 2021

イドラのサーカス

長りの デジタルアート

イドラのサーカス

イドラのサーカス

活動内容：プロジェクションマッピング

参加メンバー：角田実優 八田実久 永井春風 内田あい子

「このプロジェクトを始めたきっかけを教えてください。」

デジタルアートに興味を持ったのが一番大きいです。コロナ禍でリモート環境の中で作ることが出来るものはどんなものか考えた際、メディア系だと作りやすいと思ったからです。

「コンセプトは何ですか？」

「イドラ」の意味は洞窟の意味や哲学から来ていて、「幻影や見掛け倒し」という意味を持っています。窓に投影された赤や黄色などの色は窓本来の色ではなく、あくまでプロジェクターが映した色で、不思議な、サーカスの不気味さを表現したいと思い作りました。

「当日までの苦労はありましたか？」

アートキャンプの活動時間が、例年であれば午後8時のところ今回は午後6時までで、日没が午後5時だったのでそこから微調整もあり、開演時間が限られ大変でした。

「投影場所はなぜそこにしたのですか？」

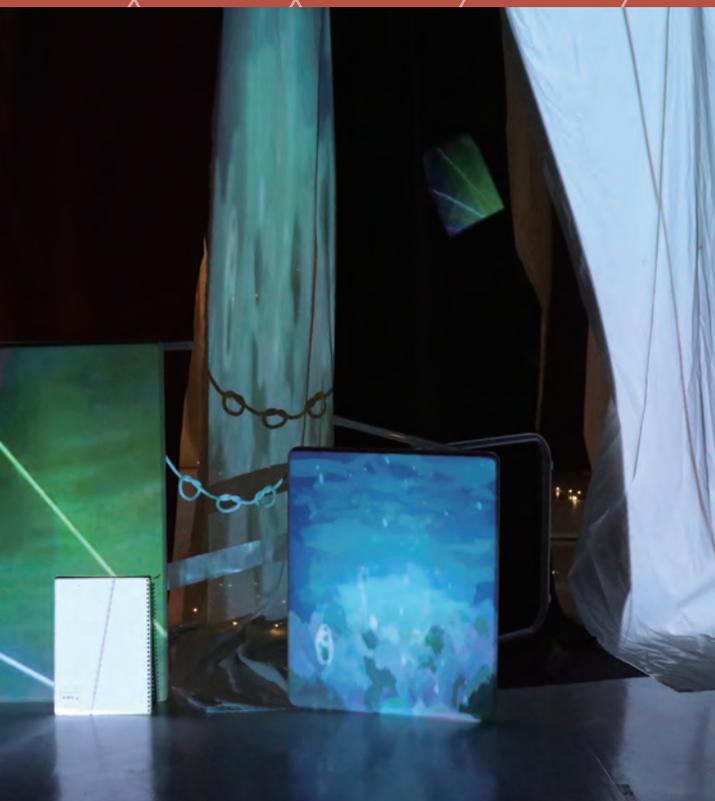
木々が多いので木々からならず、平面ではなく建物の凸凹がある場所で最も良い場所だったからです。

「雨天の変更での苦労は？」

雨よりも風の強さが大変でした。少しでも動くはずになってしまうのでその都度微調整が大変でした。

「当日を終えての感想はいかがですか？」

プロジェクト自体が完璧に完成したのは、2日目の最後から3番目の投影でした。1日目を終えてメンバーからさらに映像の追加の提案があり、1日目と2日目の映像の内容が違いました。最後にオルゴールの音声を追加し、先生方へのご協力感謝のクレジットも流しました。3日目があればもっと流せたかなと、そこが心残りでした。





「雨天の際、他プロジェクトのわくわくサーカステントのコロナはどのように行いましたか？」

「2日目当日の朝に決まり、その場で作り直しました。メンバーにも曲のリズムに合う3拍子の動画を作ってもらい、繋ぎ合わせました。」

「コロナ禍で大変だったことは何ですか？」

「映像制作の指示出しが難しかったです。集まって活動できなかっただったので文字のみで伝えることが大変でした。実際会えたのは撮影当日でした。メンバーにすぐく助けられました。」

「やりがいの方は？」

「ありますね。個人の持論も入りますが、油絵や水彩画を極めてもどこか限界を感じたり、上には上があり一番にはなれないけれど、だからこそアートとデジタル、科学など新たな分野を作って、そこでは一番になれるかもしれないと思い、今回はその足掛かりになったと思っています。とてもいい機会をいただきました。」

「アートキャンプ当日の雰囲気はいかがでしたか？」

「プロジェクトを通して、見ている人に『どうやっているの?』など聞かれてお話したり、情報共有が楽しかったなと思いました。周りのプロジェクトもレベルの高い作品をあげていて、お祭りらしさがありました。」

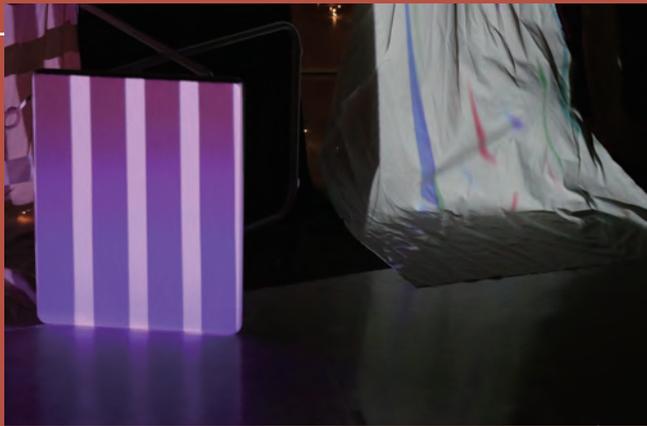
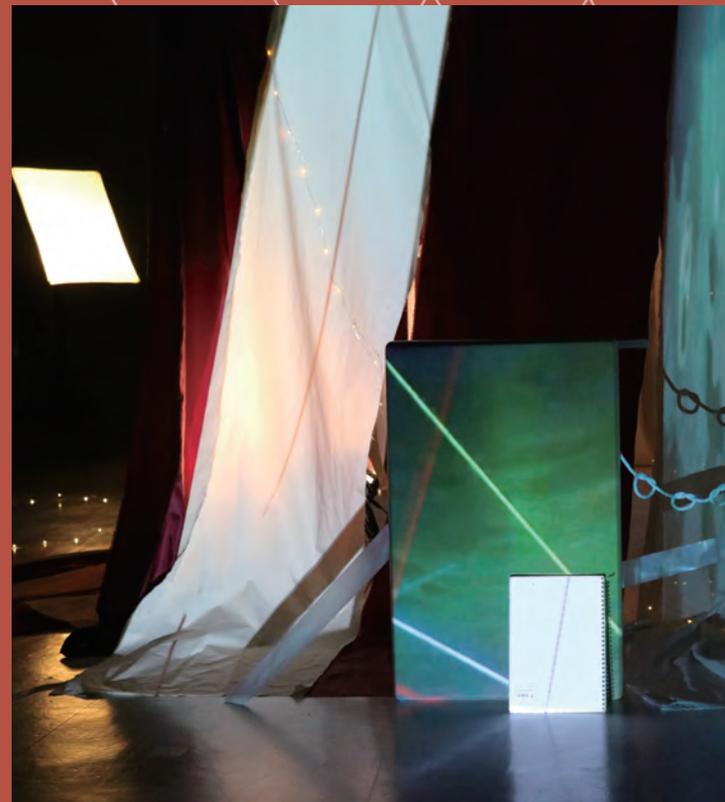
「また同じプロジェクトをやるとしたら、どんなことをやりたいですか？」

「今回はプロジェクターは1台でしたが、実際のプロジェクションマッピングでは3台のプロジェクターを使用して、物体そのものに色味がつくので、次回はそういったことを試してみたいなど。」

「最後にひとこと、何かありましたらお願いします。」

「プロジェクトを作るにあたって、先生方に支えられたのはもちろん、本部の方に本当に支えられ、非常にありがたかったです。」

一夜限りの デジタル イドラのサーカス



19 ARTICAMP 2021

イドラのサーカス



―プロジェクトについて、教えてください。

プロジェクト内容は、ブローチを作ってもらってつけてもらうというもの。もっと抽象的に言うと、自分が『これをつけたい』『や』『この色がいい』など、人それぞれの『これがいいな』というチョイスであったり、自分のつけたいものや、やりたいものをつけたりして、自分だけのブローチを作って、アートキャンプ当日はそれをつけて楽しんでもらう。つけている人を見て、自分もやってみたいと思えばユニークブローチに足を運んでくれたら、その人もまた自分だけのブローチを作ってハッピーな気分になります。みんながハッピーになれるようなプロジェクトです。

Unique Brooch

私の「好き」を、身につける。

室内での実施の方がスムーズに行うことができました。また夜は手元が暗くなるため室内の方が上手くできました。

―ブローチで使ったパーツはどのように用意したのですか？

パーツは1人あたりの予算を組んで百均などで材料を購入し、それぞれパーツを作って持ち寄りました。また、家で余った布やリボンなども持ち寄って集めました。

―当日の雰囲気はいかがでしたか？

アートプロジェクトはなかなか形に残しづらいものが多く、何か形で残るものを作ってあげられたらいいなと思って。たくさん並んでくれて本当に嬉しかったですけど、もたもたして申し訳なかったり…。



—このプロジェクトを立ち上げたきっかけは何ですか？

私がファッション系が好きなこと、アートキャンプ前にあった「白鳩マルシェ」にて自分でブローチを作って実際に販売したんです。自分で作っている時に楽しかったのと、プロジェクトを立ち上げてみたいということもあり、私でも作れるなら材料を用意すれば私以外の人も自分の好みに合わせてワークショップで楽しめるプロジェクトが作れるんじゃないかと思い、立ち上げました。

—苦労したことは何ですか？

コロナ禍で連絡のやりとりがしづらかったことです。なかなか対面で活動ができなかったので準備期間に苦労しました。また、ワークショップではコロナ禍対策としてパーティションの設置があったため、お客さんには口頭での説明でした。口頭だけではグルーガンの使用方法など間接的に説明するのが難しかったです。

—雨天時はどうでしたか？

むしろ雨天の方が苦労しました。風の影響があったため、パーティションの転倒があったり虫が多かったり、パーティツの置き場確保など：2日目の

Unique Brooch

活動内容：参加者に自分の好きなようにブローチの装飾をしてもらい、そのブローチを身につけてアートキャンプを楽しんでもらう企画。

参加メンバー：梁瀬萌夏 滝澤美柚 平野菜月 割田桃子
星野春子 岩田望 長友美桜 石田海音 内田実玖
小川愛深 小奈明日香 安達志穂 坂本空

嬉しかったんですけど、もたもたして申し訳なかったり…。

ユニークブローチでは、作った後も普段つけてくれたり、SNSなどにあげてくれたり、とても嬉しい気持ちになりました。早瀬先生が染色の授業でつけてくださったのを見て、とっても嬉しかったです。少しでも自分の好きなものを作って嬉しい気持ちになったり喜んで頂けてよかったです。

—次回も同じプロジェクトを実施するしたら、何かアドバイスはありますか？

プロジェクトの人数を減らしても良いかなと感じました。また、パーティツを広げて設置できるように長机をもう少し設置したり、当日までに器具の指導講座をきちんと行うことが大切だと思います。

—最後に、アートキャンプを振り返って、いかがでしたか？

準備期間では伝達がうまくいかず連携がとれなかったりと、不安もありましたが、当日なんとか形になってよかったなと思いました。報連相がとても大事ななと感じました。

—ありがとうございました。

ちやう企画



—どんな活動をしましたか？

簡単に言っちゃうと、自分の忘れたいことを心にしまっ
ちやうっていう、なかったことにするっていう企画なんだ
よね。でもそれだけ言うと全くもって伝わらないので、
参加説明を見てください。で、何で始まったかっていう
のが…

—お、きっかけですね。

そう。たわいもない話なんです。コロナでみんなに
会えないと愚痴とか言う機会も全然ないし、オンライン
授業だったり慣れないことばかりしてるじゃん。休日も
遊びに行けないし：みたいな(笑)。めちゃくちゃイライ
ラも溜まるし自己嫌悪も爆発だし：みたいな感じにな
って、その時に私が「ほのほの」って絵本の「しまっちや
うおじさん」がすごい好きで「本当あいつ超ムカついた
からしまっちやうおじさんにしまわれないかな」とか
言ったら「あーそれいいじゃん！」って曾根先生が言っ

22 ARTICAMP 2021

しまっちやう企画

てくれて始まったっていうのがしまっちやう企画。

—(しまっちやうしたいことを) 祠に結びつけたと思うん
ですけど、祠にした意味とかがありますか？

ノリと勢いです(笑)。手頃の箱が捨ててあったから使っ
ちやおうかなみたいな。特に意味はないかな…。その場
のみんなで話し合ってた祠がちゃんとした祠か迷って
ちゃんとした神社っぽい感じの祠にしようっていう話に
なったね。

—なんか森のじめっとした空気の中にあの祠があって…

あれね元々はその場所じゃなかったんだよ。本当は
一緒に企画していたハッピーバルーンとユニークプローチ
の隣に企画していたハッピーバルーンとユニークプローチ
だけどイドラ(のサーカス)のプロジェクトジョンマッピン
グとか色々あって移動しなきゃいけなくなって…。でも結
果的によかったのかなって。

—雰囲気良かったよね。気になって入りたくなるってい

うか。結んだ後にお告げみたいなカードをもらえるじゃ
ないですか。あれはどんな思いで書いたんでしょう？

「ユニークプローチに行くべきでしょう」みたいな。

あれは私自身が3年間アートキャンプに参加してきて
いて、1年生の時に思ったのは各プロジェクトが別々で
動いて全然関わり合ってなくて盛り上がりにかけるって
言うかさ、何かやってみるけど個人のやつなのかな？って
思ったからアートキャンプでした！みたいな。そういう感
じだったのがすごいいいや。やるなら他のプロジェクトと
か関わればいいのにと思って始めたのが2年の時のハッ
ッピーバルーンだったのよ。その延長としてしまっちやう企画
をやったから、連携をうまくとっていく役割みたいなことを
少しでもできればいいかなと思って付け足したんだよね。

—すごい良かったと思います。他のプロジェクトとのつな
がりを感じられました。

—どの程度の方が(カードですすめたプロジェクトに)



② 折り祠へ結びつける



③ 「しまっちやうしたい」と強く願いながら一札する



④ 祠にある御札とカードを取り、書いてある内容を実行する

しまっちゃん

忘れたいことしま

▼カード（一例）

抱えていた負の思いや出来事はアナタから切り離され無事しまわれました。紙に書いた内容は、きつと上には残り跡形もなく消え去ることでしよう。この良き節目に「ART CAMP」へ行かざることをススメします。

行ってくれたか分からないけどアートキャンプっていうのはここだけじゃなくて全体なんだよっていう雰囲気を持ちつつも作りたかったなっていうお話です。

— 当日に終わって最後に祠をしまった時は、どういう気持ちでしたか？

意外とたまってーみたいな（笑）。

— いっぱいあったよね！

びっくりしたよ。メンバー募集した時に2年生1人しか入ってこなかったの。何をやってるかわかりにくい企画だからみんな入ってこないしこのまま当日も参加してくれないんじゃないかと思ってたけど結果的にちゃんと趣旨理解してくれたみたいだし、溜まってたことも多かったみたいでみんな辛いんだなと思って（笑）。私だけじゃないんだなと思いがらしまった。しまった動画ってLINEにあげたっけ？

— しまっちゃん企画しまっちゃん（祠を閉める）動画ね。



大々的にやりたかったんだけど時間がおしちゃうってから動画に流しておこうって。忘れたいことは無事しまえちゃったからね。もう自分に関係ないことだからね。忘れて生きてもらえればいいかなあ。

— 自分もやってみてしまっちゃんのこと書き出して結んでつとると客観的に「こういうことがしまいたかったんだ」ってことに気づけたなと思いました。

よかったです！気持ちの整理が着いたならそれだけでやった甲斐あったなって。1回アートキャンプの前に曾根先生（が企画している）のトナリでプレ企画やらせてもらったんだけど、そこでもいまいち数集まらなかったな。アートキャンプで3倍になったみたい（笑）。

— 今年のアートキャンプはどんなものでしたか？

色々バタバタしてた割には無事終わってよかったなって思ったし今までのアートキャンプとは違うプロジェクト

があつて面白いな一って思って。例えばイドラ（のサーカス）さんとかね。アートキャンプとしてはまあ盛り上がったんじゃないかなと思うけど、私はあと一歩だとも思う。

— 造形の学生しか参加できないっていうのがね…。

そうね、そこが大きいよね。出来る範囲で盛り上げられたんじゃないかなって思う。すごい雰囲気よかったですね。いやないかなって。他のプロジェクトと関わって共同企画みたいことができたらやっぱりめっちゃ楽しいと思うんだよね。しまっちゃん企画のあの変なカードみたいのに一方的に関わりに行ったりしてもいいんじゃないかなと思う。

— 今以上にプロジェクト間の関わりを増やすことができたらよりよいアートキャンプになるということですね。ありがとうございます。

★参加方法



① 忘れたいことを用紙に書く



② 用紙を縦長に折り祠へ結びつける

活動内容
悩み事などを紙に書き、事前に制作された祠に入れていく。

参加メンバー
宮田理沙
川村奈津子
長友美桜
八反田茜
梁瀬萌夏

Happy Balloon

風船が繋ぐ幸せ

プロジェクトでどんな活動をしたか教えてください。

私たちのプロジェクトは風船をスタンプのように使って風船に色付けをする参加型の活動をしました。今年はスタンプ代わりにした小さな風船を色分けして各プロジェクトに設置したボックスに入れてもらいました。設置したボックスが8つあるんですけど、その8つのボックスを集めることで1つの言葉が完成するという仕掛けも作りました。

このプロジェクトは2年目ですが、今年もこのプロジェクトをしようと思っただけではありませんか？

去年は風船の色付けが終わった後、スタンプ代わりに使った小さい風船をたくさん集めて木に飾るオブジェを作る企画をしていました。それはそのプロジェクト内で活動がおさまる感じで終わってしまっただけです。今年他プロジェクトともつながりを持ちたいという意見があったので各プロジェクトの皆さんに協力してもらって8つのボックスを作って、協力してくれたプロジェクトの場所に設置してもらいました。

連続でやってみて感じることや1年目と違ったことはありますか？



24 ARTCAMP 2021

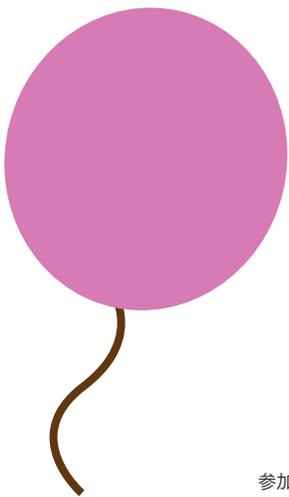
Happy Balloon

メンバー

八反田茜	本田明日香
宮田理沙	梁瀬萌夏
長友美桜	橋本玲菜
神保瑛菜	根本奈美
樋渡桂子	本間果史

活動内容

参加者にバルーンをペイントしてもらい、そのバルーンを持って楽しんでもらう企画。
水風船サイズの小さなバルーンを使い、スタンプングの要領でペイントをします。



「ハッピーバルーンの良いって何ですか？ やりがいとか。」

やりがいと言うかコンセプト自体が「風船を通してハッピーな気持ちを

があったので各プロジェクトの皆さんに協力してもらって8つのボックスを作って、協力してくれたプロジェクトの場所に設置してもらいました。

―連続でやってみて感じることや、1年目と違ったことはありますか？

去年は初めて集まったメンバーで初めてやる企画だったからピリピリするようになったりとか、うまくいかなくてモタモタしちゃうところとかも結構あったんですけど、今年は集まったメンバーも去年いたメンバーとほぼ変わらなかったんですよ。去年みたいにどうすればいいか迷うことが少なかった感じがしました。そういう意味では1回目より2回目の方が自分たちで動けるようなことが多くて...そういうところが1回目と2回目と違うと思います。

―準備期間、当日で大変だったことはありますか？

去年同様、コロナの影響でこの日に集まるようになってパッと集まることができないので大変でした。対面で集まると言っても結局9月から緊急事態宣言が出てまた集まる機会を失ってしまった...。9月の夏休み中に担当の先生に申請を出してもらって、なんとか当日の流れ確認やボックスの準備をしました。特にボックスを作るといのが今年初めてだったので、その準備が大変でした。(ボックスの材料は)外に設置するから濡れたくないのと、風船が見えやすいようにしたいのもあって透明な物を使いました。最初はパネルを使おうと思ったんですけど、一枚のパネルが千円とかいっちゃって予算内に収まるかというところで悩みました。当日は外でやると場所が狭かったりとか荷物バラバラになっちゃったり。外でやってみるのの中でやってみるとではやりやすさの違いが出るところも大変だったかなって感じがありました。

―2回やると広がりを持てるみたいなの？

あ、これたしか、去年こうだったなみたいな。風船膨らませるとかも1・2回やったらこういう感じだったなみたいのに思いついたりとか、やり方はだいたい各々が覚えていたりますので、説明も割とスムーズにできたりとかそれはちょっと安心したな。私も安心したし当日参加する人にも教えてあげられる場面があったなと思います。



―ハッピーバルーンのよさって何ですか？ やりがいとかが。

やりがいというかコンセプト自体が「風船を通してハッピーな気持ちを届ける」で、色つけていうシンプルな工程でも作る人によって表現が違ったりとか、学生や先生方でも笑って楽しんでくれるところを見るとやりがいを感ずるなって思ったし、校内を歩いていて風船を持っている人がいると、参加してくれたんだとか楽しんでもらえたんだと実感できました。

―できたものがあって見えるのがいいですね。

ちゃんとみんな風船を持って帰るっていうのが、嬉しかったです。

―去年度来てくれた参加者の反応の違いなどはありましたか？

去年よりお客さんがちょっと控えめだったかなっていうのは個人的には思っています。(ハッピーバルーンの)開始時間が去年よりちょっと遅かったりとか、2日目が雨天決行になったりとかして、そういうのもあるからなにかちょっと控えめな印象を持ちました。でも相変わらず楽しんでくれて、やる側としてはすごい嬉しかったです。

―今年のアートキャンプはどんなものでしたか？

大変でした!!

―一同(笑)

これはもう私だけじゃないんですよ。本部の人とか3月からアートキャンプの準備が始まったんですけど、3月から参加してる人は大変だったの一言。実際当日を迎えてよく間に合ったなと言いかよくこまでこれたなっていう風に思いました。前期は結構ピリピリして不安だったんですけど、後期に入ると肝が座ってきて、思ってたよりスムーズと言いか落ち着いていけたなと思えました。すごい大変でした。お疲れ様でした。来年企画する後輩の皆さんは、いろんな人に頼ってほしいです。

前期にアートキャンプの準備で行き詰まった時は助手さんやアートキャンプの活動外の先生方にもたくさんお話を聞いてもらって解決策を見つけたりしたので、私達でどうにかしなきゃって思わなくても大丈夫です。学生は学生だし私たちもわからないことはわからないので、それはもう聞かなきゃ損だと思います。

―ありがとうございました。



ART CAMP 2021 を振り返る

本部メンバーで語る、アートキャンプの裏側

座談会メンバー

本部リーダー：廣嶋奈々 宮田理沙 藤田真生
マネージャー：長友美桜 間宮桃香 福留花菜
広報代表：清水愛海 薬島良奈
設営代表：本田明日香

廣島 去年がコロナになってはじめてのアートキャンプだったよね。先輩がすごく頑張ってくれたのを踏襲してやった気がするけど、皆さんいかがでしたか？

長友 運営側に入ったならなおさら先輩たちすごかったなあと思ってたな。2人でやったんだ。うちら6人だよ。3倍だよ！

間宮 去年はね、ゼロから始めるっていうコンセプトで新しく先輩たちがやってくれて、今年はまだ変えるって言う話で始まったんだよね。

福留 去年参加したときに、もつとこうだったらな…っていうのを少し思いながら今回は運営する側に回ったっていうのは、さっき言ったように先輩すごいっていうのもあるし、もつとより広い目で見れたのかなあって気はしています。

テーマ「サーカス」について

廣島 サーカスって言うけど一応最初は「時間」だったんだよね。テーマが「時間」でコンセプトが「サーカス」にして当てはめていこうって感じだったんだけど、思ったよりサーカスの方が元気に踊り出しちゃったよね。

福留 でもつかみやすいコンセプトで作れたのかなっていうのはあるかな。

廣島 コンセプト的には一体感も生まれたし、めっちゃよかったかなと思う。

長友 いやあ、最初のキャッチコピーが懐かしい。

廣島 「共に刻む、永遠のサーカス」ね！そもそもなんだけども、あれ仮決定じゃなかった？もう一回考え直そうって話だったけどしてないよね。先生もインパクトに欠けるかもうちよつとみたいな感じに言ってたけど、でも割とそれがすぐに思い出せるって事はちゃんと印象に残るコピーだったのかなと思って。言っただけ悪くなかったと思う。

当日の雰囲気

福留 私結構びっくりした！1日目も造形だけの参加というのあった、毎年ちよつとこちゃんまりした感じだったのが、パンフレットとかの対応をされていて「あ、こんなにきてくれるんだ」という驚きがあった。割とお祭り感あったよね。思った以上に来場者数もあったし。雰囲気もあつたし結構盛り上がったよね。

間宮 夜になるとマジで楽しかったっていうか。

廣島 1つ1つの作品もそうだけど、それが合わさったときの一体感。思ったよりも色味も統一されてる！ってなったのを覚えてて。インスタで開催した座談会でも先生をお招きしたときには少しお話したけど、先生方も、その場の統一感すごかったな。みたいな話をしてくれたりして。

長友 そこはみんな意識してやってたからちゃんと形になってよかったよね。

例年とここが違う点

藤田 Tシャツじゃない？ほんとにでかいと思う。先生が着てくれたる姿も感動した…！

廣島 そうだね。割となんか服装と缶バッジリレーとか身につける系があったから、あ、この人アートキャンプに参加してくれてる！みたいな。その人も一緒にになってサーカスを楽しんでるよみたいな気持ちになってよかったなと思ったかな。みんな缶バッジリレーとかやらないのかなあと思ってたけど、かなり楽しんで集めてくれたから嬉しかった。スタンパリーの違うバージョンとしてやってたけど、あれはあれで紙じゃないから形として残りやすいし、缶バッジ1つ1つのデザインもかわいかったしね。

福留 それと、2年前の話を聞いてると、先生が主体になってっていうか、先生ごとにこれをやるっていうのが決まっていたよね。去年からそうだけど、今年特に1年生も「これやりたい」というので先生がついてくる感じだったじゃん。より理想に近づいたアートキャンプだったのかなって。

やりがいを感じたこと・今後に活かしたいこと

廣島 やっぱり当日見たときの達成感っていうか、関わってよかったなという気持ちがあった。あと、1年生がプロジェクトを立ち上げてくれたっていうのが、すごいなあ。2年生も勿論なんだけど。3年生だけじゃなくて後輩も積極的に企画してくれたのが嬉しかったな。

藤田 いっぱい、相談というかさ、どうしたらいいんだろうみたいな葛藤もあったみたいだから…。本当に頑張ったよね。

廣島 色々経験したことを活かして、ハッピーバールンとか、来年もやりたいして、どんどんアップグレードしていったらいいよね。

福留 今回、先生たちの中で、しまっちゃん企画が好評だったじゃない？ただ物を作るっていうだけじゃなくて、よりアートに近いというか、意味を持って企画するっていうのが来年も浸透して続いてほしいなと思った。

印象に残ったこと

間宮 夜の記憶がすごいんだよね。きれいだったよね。

長友 あと、虹！大変だった会議の日に窓を見たら「虹だあ！」ってなったよね。

廣島 あとなんだっけ…。2日目晴れたこと！2日目結構雨降ったじゃん。プロジェクトとか閉会式を中々やるか外にしようか迷ってたときに最終的に月も見えないくらい晴れて、嬉しかったなあ。気持ちが届いたように。天気の話ばかりだね！

清水 アートキャンプって、外でやるから天気は左右されるっていうのも面白いところだと思って。天気の印象って大きいよね。

コロナが終息していたら？もう一度やるなら？

廣島 それこそ今回は夜が華やかな企画が多かったじゃん。これでもうちよつと夜が続けばよかったのになって思っ。

宮田 外部参加できるようにしたかったよね。私がハッピーバールンをやったのは風船をみんなに配っ





一同
ありがとうございました！

希望を込めて、俺たちの冒険はまだまだ続くという言葉で締めさせていただきます……

まとめ

イベントを開催するってことは、こういうことなのねって感じ。

色々ありましたけども、皆さんのお力添えのおかげでここまで来れました！いや、楽しかったなと思っ

まだまだアートキャンプはアップグレードの途中です

対策をね、しっかり立てればできそうだな。

それはそれで、条件があつてっていう状況を経験できたのは、あまりないことだと思っ

来年は撮ってね、っていう(笑)。来年だったらコロナの規制も、もうちょっと改善されたりしないかな……

全体でも集まることなかったし、それで終わっちゃったから。しかも気付いたら全体の集合写真撮ってないよね。毎年5号館上あたりから撮ってたじゃん。撮ってない！と思っ

リーダー会議とかもつとやりたかったな。リーダー同士、こういうことやってます！なんて報告しあつて、私たちはこういうことやること、そこはこ

あとは食品とかやりたい……！せつかくでかいピザ窯があるから使いたいよね。22号館の隣のカフェスペースとかの活用をしていき

小さい子たちに喜んでもらいたかったのうが あつたから、保育園とかと連携したり呼び込みた

あつたっていうのはあるかな。

あつたっていうのはあるかな。

あつたっていうのはあるかな。



▲ポスター



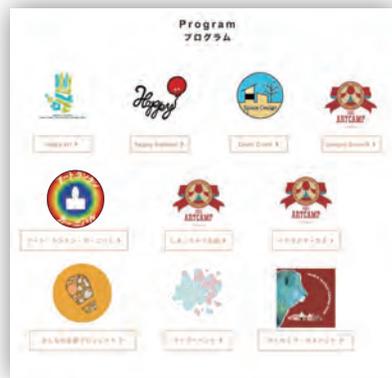
▲パンフレット



▲ポストカード



▲Web サイト



WORKS



A
に言っただけど、でも割とそれがすぐに思い出せるって事はちゃんと印象に残るコピーだったのかなと思って。言うほど悪くなかったと思う。

生がいてくる感じだったじゃん。より理想に近づいたアートキャンプだったのかなって。

宮田
外部参加できるようにしたかったよね。私がハッピーバールンをやったのは風船をみんなに配

—— 2020年、コロナウイルスのパンデミックが起こる。

受け継いできた企画の数々が実現不可能になり
文字通りゼロからのスタートとなりました。

—— そして2021年。

コロナの終息を夢見るも、再拡大。度重なる緊急事態宣言。

期待していた企画が次々に崩れました。
共に過ごす時間が少なかったことは確かです。

それでも私たちは、
共にできるひと時を大切に
心を重ね、工夫を重ね
できることを精一杯やり尽くして
アートキャンプを作り上げました！

今年のコセプトは「サーカス」です。
空中ブランコ、綱渡り、玉乗り、猛獣使い、ピエロ…。
ワクワク、ドキドキ。サーカスの天幕は夢の世界。

個性豊かな企画の数々。1人ひとりが主人公。
アートキャンプは、まさに「サーカス」。

煌びやかな舞台も、最後の演目が終われば
その一瞬の、楽しかった思い出が残るだけ。

アートキャンプも過ぎてしまえば
やりがいも、苦勞も、満足も…記憶の彼方。
でも、確かに存在した、かけがえない時間です。

心に刻まれたその一瞬を切り取って
ぎゅっと凝縮して綴じ込みました。
これは、時間旅行のチケットです。

手に取る度に思い出すことでしょう。
永遠に色褪せることのない、煌びやかなひと時を。

ART CAMP 2021 ～共に刻む、永遠のサーカス～

本部メンバー

本部リーダー：廣嶋奈々 宮田理沙 藤田真生

マネージャー：長友美桜 間宮桃香 福留花菜

会計：★梁瀬萌夏 八反田茜 横浜成美

広報：★清水愛海 ★築島良奈 中田侑里 出口雛子 佐賀阿麻穂 田口絵里加 中嶋利乃佳 平野さくら 西田彩乃 金子愛実

設営：★本田明日香 草野夏穂 北山未沙稀 柏木郁乃 村山夏音 大和田莉沙 金子愛実 菱沼百花 平岡美乃莉 飯岡夏希 大川瑞葉 阿蘇暁音

※★＝リーダー

冊子制作メンバー（広報）

3年：清水愛海 築島良奈 中田侑里 出口雛子 佐賀阿麻穂 田口絵里加 中嶋利乃佳

2年：平野さくら 西田彩乃

1年：金子愛実

アートキャンプ 2021 共に刻む、永遠のサーカス

編集 アートキャンプ 2021 制作スタッフ

発行日 2021年12月7日

発行所 東京家政大学 家政学部 造形表現学科 〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

印刷・製本 株式会社美創企画